

## カウンセリングはどのように理解されているか？ —心理臨床家との比較から—

Do you understand what counseling is?

坂 中 正 義

SAKANAKA Masayoshi

福岡教育大学教育学部

学校教育講座心理学研究室

(平成16年8月5日受理)

### Abstract

The purpose of this study is to examine counseling image people recognizes. First, the author carried out open-ended question about counseling image to 191 teachers, and he made 63 question items .

Secondly, he carried out 63 question items about counseling image to 332 students and 32 psychotherapist. From the result of factor analysis, he made counseling image inventory(9 factors, 54 items).

Next, he compared student's counseling image and psychotherapist's it. He confirmed many difference in counseling image. People recognized counseling from the viewpoint of repair-model.

Keywords: counseling image, psychotherapist, repair-model, growth-model

### 要約:

本研究の目的は、人のカウンセリングに対する理解を調査することである。まず、教員191人にカウンセリングについて自由記述してもらった。その結果をもとに作成した16因子63項目から成る質問紙を用いて大学生332名と心理臨床家32名に調査を行った。因子分析の結果、54項目9因子のカウンセリング理解インベントリーが作成された。一般人と心理臨床家の回答を比較した結果、多くの項目で有意差がみられた。一般人は「修理モデル(を支える働きかけの知)」的視点からカウンセリングを捉えていることが明確となった。

キーワード: カウンセリングイメージ 心理臨床家 修理モデル 成長モデル

### 問題と目的

今日、様々な心理的問題へのアプローチとしてカウンセリングが注目されている。これはある種のブームである。カウンセリングをテーマにした書籍や映画が流行したり、大学の心理学関連学科の志望者も増えている。しかし、そこでイメージされているカウンセリングは、一体いかなるものであろうか？ 映画でのカウ

ニングの描き方や心理学を学ぼうとしている学生の捉えているカウンセリング像などを検討すると、実際のカウンセリングとはずいぶん異なったものを想定しているように思える。

この問題は、映画や学生に限ったことではなく、実際のクライアントにおいても重要である。河合(1976)は、クライアントが期待していることとカウンセラーが狙いとしていることに

食い違いがあることを指摘している。例えばクライアントは「一刻も早く治りたい、悩みを解決したい」と考えているのに対し、カウンセラーは「悩みの背景の方へ回ろう」と聴く態度をとる。クライアントがそのずれに対して不満を感じることもあるという。同様の指摘は成田(1981)などにもみられる。

クライアントの作り上げたカウンセリング像と実際のカウンセリングとはズレがある。このズレの中でどう折り合いをつけていくか、これはクライアントと援助的な関係を形成する上で不可欠であり、初期段階の面接(場合によっては全過程)においてカウンセラーの重要な仕事といえよう。

このように心理臨床家のいうところのカウンセリングとクライアントを含めた一般人のイメージしているカウンセリングとは大きなズレがある。このズレを教師と心理臨床家双方から扱った研究に伊藤(1993)(1994)がある。

伊藤(1993)(1994)は、スクールカウンセラー事業の円滑な運営には教師とスクールカウンセラーの連携が不可欠とし、その足がかりとして教員の持っているカウンセラーイメージを調査している。伊藤(1993)では自由記述を中心に、伊藤(1994)では、SD法を中心に分析している。しかし、これらの研究はあくまでも教師という立場からみた心理臨床家であり、教育臨床における実践の問題として扱われている。よって、そもそものカウンセリング理解が実際とはズレているといった検討は十分になされていない。

このカウンセリング理解のズレ自体について言及しているものとして村山・山本(1995)がある。村山・山本(1995)は、心へのアプローチとして、症状を管理し除去に努めるという視点を「修理モデル」、悩みを人生上で直面する発達課題ととらえ、心の発達・成熟を援助するという視点を「成長モデル」としている。前者は、「働きかけの知」という我々の常識的なものの考え方に支えられており、後者は、「受け身の知」というカウンセラーがよって立つ考え方に支えられていると述べている。ここで述べられている視点は、一般のカウンセリング理解をうまく整理しているが、実際のズレを調査した中から述べられてはいない。そもそも、一般人のカウンセリングの理解と実際には、どのようなズレがあるのかを調査した研究は少な

い。

そこで本研究では、一般人がカウンセリングをどのようなものとして理解しているかを明確にし、その理解と実際との相違を分析することを目的とする。具体的には、カウンセリングの理解を調査する「カウンセリング理解インベントリー」を作成し、一般人と心理臨床家のカウンセリングについての理解を比較、その異同を検討する。これにより、今日のカウンセリングブームを考える手がかりや、現代日本社会の抱える問題の「こころ」側の要因を明確にしてゆくための資料が得られるであろう。また、臨床的には、治療面接初期段階におけるクライアントの期待がいかなる傾向にあるかを明示することになるだろう。

### 予備調査

#### 方法

**対象** A県教育委員会主催の研修会に参加した教員191名であった。

**調査内容** カウンセリングをどのように理解しているか、自由記述により調査した。

**調査時期** 2000年8月に実施した。

**手続き** 研修会の中で、質問紙の配布、記入、回収した。

#### 結果

回答内容をKJ法(川喜田, 1967)の要領で検討すると16カテゴリーに分類できた。そのカテゴリーは次の通りである。「1.傾聴」「2.心のケア(癒し)」「3.共感」「4.受容」「5.純粋性」「6.指示性」「7.自己理解」「8.何でも話せる」「9.結果性」「10.関係性」「11.心の専門家」「12.援助・支援」「13.安心感」「14.成長モデル」「15.修理モデル」「16.秘密」。これをベースに「カウンセリング理解インベントリー」を作成することとした。

### 本調査

#### 方法

**対象** B大学の大学生334名とC大学心理教育相談室関係者で修士課程修了以上の心理臨床家39名であった。

**調査内容** 予備調査により抽出された16カテゴリーごとに、自由記述の内容やカウンセリング関連の文献を参考にし、約5項目の質問項目を設定、63項目の質問紙を作成した。各項目

は「あてはまる」から「あてまらない」までの5件法とした。なお、心理臨床家に対しては、主な臨床の場とオリエンテーションについての項目も設定した。

**調査時期** 2000年12月に実施した。

**手続き** 学生には講義時間中、質問紙を配布し、一斉に回答を求めた。心理臨床家には質問紙を送付し、個別に回答を求めた。

## 結果

**対象について** 学生の有効回答数は322名(96.40%)であった。男女比は125:207であった。平均年齢は20.15歳(SD=1.26)であった。学年別人数は、1年生63名、2年生148名、3年生80名、4年生以上28名、その他3名であった。臨床家の有効回答数32名(82.05%)であった。男女比は16:16だった。平均年齢は33.26歳(SD=8.22)であった。また、主な実践の場(複数回答)は、病院23名(71.88%)、教育関係18名(56.25%)、心理教育相談室6名(18.75%)、学生相談4名(12.50%)、福祉関係2名(6.25%)、地域臨床1名(3.13%)、電話相談1名(3.13%)であった。主なオリエンテーションとしては、折衷14名(43.75%)、人間性心理学11名(34.38%)、精神分析6名(18.75%)、臨床動作法1名(3.13%)であった。

**質問紙の検討** 各項目は「あてまらない」から「あてはまる」を1~5点として得点化した。質問項目の因子分析を行った。4~14因子数の因子構造を全て検討し、最も適切と思われる9因子解(主成分法、バリマックス回転)を採用した。負荷量0.4未満の項目を削除し、再度9因子を設定した因子分析を行い、各項目の最終的な因子負荷量を得た(最終的な項目は資料を、各項目の因子負荷量はTABLE 1参照)。

得られた因子負荷量から、各因子を解釈した。

因子1に高い負荷量を持つ項目は、「1.カウンセラーがクライアントと違う考えを持っていたとしても、カウンセラーはクライアントの考えを暖かく聞いてくれる」といった受容を表すものと「43.カウンセラーはゆっくり、静かに話を聞いてくれる」といった安定を表すものが含まれていた。クライアントが感じる安定感や受容に関係項目が多かったため、この因子を「安定・受容」とした。

因子2に高い負荷量を持つ項目は、「2.カウンセリングを受けると、必ず問題の答えがで

る」「34.カウンセリングを受ければ受ける程問題は解決していく」といった悩みが必ず解決されるといったものが含まれていた。カウンセリングにおける結果を重視した項目が多かったため、この因子を「結果重視」とした。

因子3に高い負荷量を持つ項目は、「3.クライアントが自分の変化に気づくことができただけでもカウンセリングの意味はある」「21.カウンセリングではクライアントが自分でも気づかないような心の内面に目を向けることができる」といったクライアントが自分自身と向き合うといったものが含まれていた。クライアント自身の理解することへのサポートが行われるといった項目が多かったため、この因子を「自己理解へのサポート」とした。

因子4に高い負荷量を持つ項目は、「4.カウンセラーは問題についての適切なアドバイスをくれる」「22.カウンセラーがクライアントを正しい方向へ導いてくれる」といったカウンセラーがクライアントに働きかけるといったものが含まれていた。カウンセラーがクライアントに対し何らかの指示を行うといった内容の項目が多かったため、この因子を「指示性」とした。

因子5に高い負荷量を持つ項目は、「5.カウンセリングの際、カウンセラーは自分自身に素直である」といったカウンセラーの率直性を表すものと「37.カウンセラーはクライアントの言葉だけでなく、感じていることもよく分かってくれる」といった共感性を表すものが含まれていた。カウンセラーとクライアントは相互に理解しあう関係にあるといった項目が多かったため、この因子を「相互理解」とした。

因子6に高い負荷量を持つ項目は、「6.カウンセリングにおいてクライアントは何でも話すことができる」「カウンセリングの場は話しやすい雰囲気である」といったカウンセリング場面はリラックスした場といったものが含まれていた。クライアントは、カウンセラーに対してどんなことでも話せるという項目が多かったため、この因子を「自由に話すことができる場」とした。

因子7に高い負荷量を持つ項目は、「7.カウンセリングは個室で一对一で行なわれており、重苦しい感じがする」のみ違和感があるものの、後の項目は「16.カウンセラーは援助をし、クライアントは援助される者である」「25.カウンセラーはクライアントの心の病の管理、除去に務める」といった村山・山本のいう「修理モデ

TABLE 1 カウンセリング理解インベントリーの因子負荷量

項目番号	Factor 1	Factor 2	Factor 3	Factor 4	Factor 5	Factor 6	Factor 7	Factor 8	Factor 9	共通性
item1	0.68	-0.15	0.16	0.00	0.14	0.11	-0.05	-0.04	-0.12	0.55
item10	0.67	0.15	-0.03	0.11	0.23	0.06	-0.03	-0.07	-0.13	0.57
item19	0.65	-0.03	0.10	0.04	0.11	0.21	0.07	-0.23	-0.07	0.55
item26	0.65	0.03	0.18	-0.12	0.22	0.03	-0.05	-0.14	0.06	0.55
item33	0.63	0.00	0.15	0.25	0.22	0.14	-0.18	-0.02	0.03	0.59
item39	0.63	-0.12	0.29	0.14	0.03	0.21	-0.14	-0.14	0.18	0.63
item43	0.63	0.01	0.14	0.09	0.07	0.16	-0.03	-0.04	0.18	0.48
item46	0.61	-0.02	0.15	-0.12	-0.04	0.01	0.11	-0.06	-0.01	0.43
item49	0.61	-0.14	0.15	0.13	0.07	0.23	-0.25	-0.10	-0.02	0.56
item51	0.60	-0.08	0.20	0.18	0.12	0.11	-0.04	-0.03	-0.17	0.50
item53	0.50	-0.07	0.40	-0.26	0.07	-0.15	0.15	0.02	0.03	0.53
item54	0.48	-0.22	0.32	0.11	0.02	0.17	0.05	-0.01	0.02	0.43
item2	-0.13	0.78	-0.11	0.12	0.02	0.03	0.00	0.02	0.05	0.65
item11	0.01	0.68	-0.02	0.21	0.05	0.06	0.07	0.02	-0.16	0.54
item20	-0.02	0.67	-0.06	0.33	0.08	-0.04	0.08	-0.02	-0.01	0.57
item27	-0.24	0.60	-0.18	0.08	-0.01	-0.10	0.07	0.17	0.08	0.50
item34	0.09	0.60	0.18	0.12	0.04	-0.07	0.23	0.03	-0.19	0.50
item40	-0.21	0.59	-0.16	0.12	0.01	0.08	0.13	0.05	0.26	0.52
item44	0.08	0.50	0.30	0.00	0.09	0.24	-0.27	-0.02	0.09	0.50
item47	-0.02	-0.48	0.02	0.15	-0.04	-0.11	0.10	-0.07	0.39	0.44
item3	0.22	-0.13	0.59	0.05	0.07	0.22	-0.18	0.01	0.02	0.50
item12	0.16	-0.21	0.54	0.24	0.22	0.15	-0.17	0.23	-0.04	0.58
item21	0.38	-0.04	0.54	-0.03	0.09	0.13	0.09	-0.05	-0.09	0.48
item28	0.36	-0.18	0.53	0.05	0.09	-0.08	0.05	-0.21	-0.04	0.52
item35	0.17	0.06	0.53	0.20	-0.01	0.09	-0.03	-0.13	0.04	0.38
item41	0.25	0.06	0.50	-0.03	-0.04	0.38	0.15	-0.28	0.04	0.56
item45	0.19	0.32	0.48	0.01	0.20	0.30	0.10	-0.22	-0.01	0.55
item48	0.46	-0.08	0.47	-0.02	0.18	-0.14	-0.15	-0.06	0.05	0.52
item50	0.36	0.08	0.46	-0.19	0.20	-0.12	-0.23	0.03	0.17	0.52
item52	0.30	-0.14	0.43	0.19	-0.02	0.43	0.00	-0.24	0.11	0.59
item4	-0.07	0.17	-0.15	0.72	-0.05	0.16	0.17	0.03	0.05	0.63
item13	0.03	0.22	0.29	0.65	0.02	-0.08	-0.04	0.11	-0.10	0.58
item22	0.04	0.33	0.01	0.62	0.05	0.03	0.15	-0.14	-0.04	0.54
item29	0.18	0.09	0.08	0.59	0.16	0.05	0.02	0.02	0.10	0.43
item36	0.37	-0.03	0.34	0.45	0.13	0.01	0.10	0.05	-0.12	0.50
item5	0.17	0.00	0.01	0.05	0.77	0.14	0.07	-0.11	0.05	0.66
item14	0.16	0.21	0.01	0.02	0.69	0.01	0.04	-0.10	0.02	0.56
item23	0.27	0.01	0.01	0.06	0.64	0.18	0.07	-0.29	-0.01	0.60
item30	0.01	-0.15	0.24	0.04	0.59	-0.06	-0.04	0.18	-0.08	0.48
item37	0.36	0.18	0.23	0.26	0.44	0.09	-0.13	0.03	-0.01	0.51
item42	0.43	0.16	0.22	0.17	0.43	0.07	-0.18	-0.04	-0.07	0.51
item6	0.18	0.12	0.05	-0.09	0.33	0.52	0.13	0.05	-0.21	0.50
item15	0.34	0.17	0.12	-0.06	0.20	0.52	-0.31	0.03	-0.18	0.60
item24	0.22	0.05	0.18	0.39	0.02	0.51	-0.02	-0.04	0.11	0.51
item31	0.38	-0.11	0.18	0.16	0.06	0.49	-0.01	-0.05	0.16	0.49
item38	0.29	0.32	0.06	0.06	0.38	0.42	0.02	0.16	-0.18	0.57
item7	-0.10	0.08	-0.15	0.01	0.03	-0.10	0.56	0.19	0.24	0.46
item16	0.00	0.07	0.07	0.17	0.05	0.21	0.53	-0.02	-0.25	0.42
item25	0.07	0.19	-0.05	0.44	0.01	-0.12	0.46	0.19	-0.04	0.50
item32	-0.21	0.19	0.02	0.24	0.06	-0.01	0.44	0.36	0.04	0.47
item8	-0.15	0.04	-0.16	0.07	-0.07	0.02	0.17	0.72	0.15	0.63
item17	-0.27	0.14	0.11	-0.05	-0.16	-0.06	0.13	0.61	0.00	0.53
item9	-0.09	0.12	-0.09	-0.17	0.00	0.04	0.04	0.20	0.72	0.62
item18	0.10	-0.20	0.25	0.16	-0.04	-0.02	-0.08	-0.03	0.49	0.39
寄与	6.80	4.06	3.96	3.16	3.00	2.30	1.81	1.80	1.60	15.26
寄与率	12.59	7.52	7.33	5.85	5.56	4.26	3.35	3.33	2.96	28.26

ル」いったものが含まれていた。カウンセリングを受けると状態がよくなる等の治療を意識した項目が多かったため、この因子を「修理モデル」とした。

因子 8 に高い負荷量を持つ項目は、「8.カウンセリングは何が行なわれているかわからず、不信感がある」「17.カウンセリングでは何をしているのかさっぱりわからない」といった不信感が含まれていた。よってこの因子を「カウンセリングに対する不信」とした。

因子 9 に高い負荷量を持つ項目は、「9.クライアントにとってカウンセリングはいつ自分の本性がばれるかわからないので、不安である」「18.カウンセリングにおいて、クライアントは自分をさらけ出すことへの怖さがある」といった自分理解に伴う不安が含まれていた。よってこの因子を「分かること分かれることへの不安」とした。

以上、この 9 因子 54 項目をもって、「カウンセリング理解インベントリー」とした。

**心理臨床家との比較** 各因子の標準因子得点をもちいて、心理臨床家と大学生との間で各因子毎の t 検定を行った。結果は TABLE 2 のとおりである。7 つの因子において有意差がみられた。一般の人が有意に高かったのは、「結果重視 (t=-2.87, p<.05)」「指示性 (t=-3.62, p<.01)」「修理モデル (t=-3.65, p<.01)」の 3 因子であった。一般の人が有意に低かったのは「自己理解へのサポート (t=2.18, p<.05)」「相互理解 (t=7.15, p<.01)」「自由に話すことができる場 (t=6.17, p<.01)」「分かること、分かれることへの不安 (t=2.27, p<.05)」の 4 因子であった。有意差がみられなかったのは「安定・受容 (t=1.86, ns)」「カウンセリングに対する不信 (t=0.86, ns)」の 2 因子であった。これらを図示したものが、FIGURE である。

FIGURE 大学生と心理臨床家とのカウンセリング理解の比較

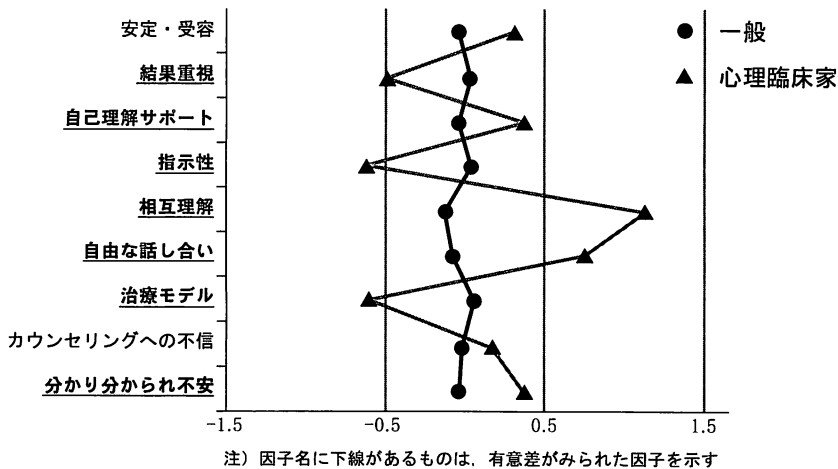


TABLE 2 大学生と心理臨床家とのカウンセリング理解の比較

	一般	心理臨床家	t 値
1 安定・受容	- 0.03 (1.02)	0.31 (0.78)	1.86
2 <u>結果重視</u>	0.04 (1.00)	- 0.49 (0.92)	- 2.87 **
3 <u>自己理解へのサポート</u>	- 0.04 (1.02)	0.37 (0.77)	2.18 *
4 <u>指示性</u>	0.05 (0.99)	- 0.61 (0.91)	- 3.62 **
5 <u>相互理解</u>	- 0.12 (0.94)	1.14 (1.01)	7.15 **
6 <u>自由に話すことができる場</u>	- 0.08 (1.00)	0.75 (0.67)	6.37 **
7 <u>修理モデル</u>	0.06 (1.00)	- 0.60 (0.86)	- 3.65 **
8 カウンセリングに対する不信	0.00 (1.00)	0.17 (1.12)	0.86
9 <u>分かること分かれることへの不安</u>	- 0.03 (1.00)	0.38 (0.71)	2.27 *

\* p<.05 \*\* p<.01

### 考察

本研究では、一般人のカウンセリング理解のズレを調査するため、「カウンセリング理解インベントリー」を作成し、心理臨床家とその理解を比較した。

まず、作成したインベントリーについてであるが、因子についてはカウンセリング理解の幅広い領域をカバーしており、多くの因子で一般と心理臨床家の間で有意差がみられたことから、認識のズレをある程度多面的に把握できるものといえよう。プロフィールなどもちいれば、ある人がどのようなカウンセリング理解を持っているか容易に把握することができる。しかしその一方で、因子を構成する項目数のアンバランスさや因子解釈の面で、再考の余地もある。特に2項目しかない因子が2つもあり、さらに項目を拡充してより適切なものへと改変する必要があるだろう。

また、対象の問題も考慮する必要があるだろう。今回の対象は大学生のみであり、一般人の理解のズレを検討するには、さらに様々な対象を調査する必要がある。一方、心理臨床家については、日本における心理臨床家の様々な基礎データ（日本臨床心理士会職能委員会, 1999 参照）と比較すると今回対象とした心理臨床家は、若干ではあるが、異なった傾向もみられた（職種では、医療、大学が多く、教育、福祉、開業、司法、企業などが少ない。オリエンテーションでいえば、人間性心理学が多く、精神分析が若干少ないが、後は全体的傾向とそれほど差はなかった）。どういった職種で、どんなオリエンテーションに基づいて実践を行っているかといったことは、心理臨床家のカウンセリング観に少なからず影響を与えていると考えられる。よって、今後、多くの心理臨床家を対象に調査してゆく必要があるだろう。

以上のように本研究は、いくつかの面で問題が残されているが、本研究の目的である一般人のカウンセリング理解のズレについての知見は、仮説として検討できるのではないだろうか。よって、以下、結果をふまえながら、そのズレについて検討してゆく。

一般人と心理臨床家のカウンセリング理解の比較であるが、多くの点で有意差がみられた。「結果重視」「指示性」「修理モデル」の得点は、一般の方が、心理臨床家よりも高かった。このことから、一般人は、カウンセリングをカウンセラーから様々な指示をしてもらい、何らかの結果が出て、病気が治るという意味での治療効果が出るものと考えていることが分かる。

また、「自己理解へのサポート」「相互理解」「自由に話すことができる」「分かること分かれることへの不安」の得点は、一般の方が心理臨床家よりも低かった。このことから、一般人は、カウンセリングで自由に話し合いながら、自己理解や相互理解を深めてゆくといった面をあまり理解していないことが伺える。また、「分かること分かれることへの不安」を心理臨床家の方が高く見積もっているという結果は興味深いだが、これは逆にいえば、一般人が、カウンセリングに伴う不安（危なさ）の自覚に乏しいということを表している。

こういったズレが、河合（1976）がいうところの、クライアントが期待していることと、カウンセラーが狙いとしていることの食い違いと関連しているのではなからうか。

一方、「安定・受容」「カウンセリングに対する不信」の得点は、一般と心理臨床家の差がみられなかった。このうち「安定・受容」は、カウンセリングの比較的的理解されやすい部分のため、「カウンセリングに対する不信」については、心理臨床家が、カウンセリングに対して誰もが持つ不信感を予測し、そこから質問紙に回答したため差がみられなかったのではないかと考えられる。

以上を要約すると「人はカウンセリングを本能的には安定・受容的な場と認識しているが、自分の悩みをカウンセラーによって取り除いてもらったり、解決してもらうことを期待している。しかし、カウンセラーがどのようにしてそうするかについては分からないので不信感も抱いている。また、実際のカウンセリングでは大切にしているクライアントの自発的自己探究や相互理解、そのプロセス自体が成長であるといったことは理解していない」といえる。

このズレは、村山・山本（1995）の指摘にある「修理モデル（を支える受け身の知）」「成長モデル（を支える受け身の知）」にほぼ対応しており、本研究で得られた知見が、彼らの心の捉え方の整理について妥当性を示しているともいえる。一般人は「修理モデル（を支える働きかけの知）」という考え方に親しんでいるため、カウンセリングもその視点からとらえようとしている。それがこのズレとして現れるのではなからうか。カウンセリングをどうとらえているかは、その人の心の捉え方と密接に関わっており、その意味では、カウンセリングという言葉が投映図版のように機能しているともいえる。人はカウンセリングをとらえたいようにとらえているのだらう。

TABLE 3 素点に基づく心理臨床家の基礎データ

	平均	標準偏差		平均	標準偏差
1.安定・受容	53.13	4.93	6.自由に話す	20.03	2.66
2.結果重視	14.84	3.94	7.治療モデル	12.03	2.24
3.自己理解	42.19	3.88	8.不信	4.06	1.98
4.指示性	14.34	2.56	9.わかられ不安	7.63	1.16
5.相互理解	23.16	4.15			

村山・山本(1995)によれば、「修理モデル(を支える働きかけの知)」「治療モデル(を支える受け身の知)」という心へのアプローチは、双方補い合うような関係であると述べている。しかし、現代社会の心の捉え方はあまりに「修理モデル(を支える働きかけの知)」に傾いている。そうしたバランスを欠いた一面的な心の捉え方と様々な心理的問題の増加とは無関係ではないであろう。だからこそ欠けている「成長モデル(を支える受け身の知)」といった視点を持つ心理臨床家が、これらの問題に貢献できるのではなからうか。カウンセリングでいえば、クライアントの中に「成長モデル(を支える受け身の知)」の視点を養うことができるか、スクールカウンセリングでいえば、学校コミュニティの中に「成長モデル(を支える受け身の知)」的視点を養うことができるか、心理学を学びたい学生の中に「成長モデル(を支える受け身の知)」的視点を養うことができるかが、心理臨床家の専門性であろう。しかし、クライアントは、学校コミュニティは、心理学を学びたい学生は、「修理モデル(を支える働きかけの知)」的視点を期待(投影)して、心理臨床家の前に立ち現れるのである。よって、心理臨床家の意図のズレからくる治療抵抗、中断といったことが問題となる。だとすれば、このギャップの取り扱いがカウンセリングの実践・教育両面に置いて考慮する必要があるであろう。本研究ではこのズレを確認することが目的であった。このズレをそれぞれの領域でどう取り扱うかは、今後の大きな課題である。そのためには、臨床実践や教育において、このズレがどのように変化するのかといったプロセスの研究や教育方法といった視点も含んだ介入法の開発が課題であろう。例えば、本研究で作成したインベントリーを関連領域の授業で使用し、学生自身のカウンセリング理解を再検討するといったことも上述の介入法の1つといえよう。

#### 補足

筆者は、この「カウンセリング理解インベントリー」を、カウンセリング・心理療法関連の授業や研修の初期で使用し、受講生のカウンセリング理解を振り返らせるといった試みを行っている(その実践は、別の機会に報告するつもりである)。まず、インベントリーを記入させ、それぞれの因子毎に自己採点する。その得点と心理臨床家の得点を比較して、自己のカウンセリング理解をワークシートを用いてチェックする。その際に用いる心理臨床家の素点の基礎データをTABLE 3に示した。このデータは本研究の対象となった心理臨床家32名にもとづいている。

付記：本論文は日本カウンセリング学会第35回大会での発表を、加筆・修正したものである。調査にご協力いただいた方々に深く御礼申し上げます。

#### 文献

- 伊藤美奈子 1991 学校カウンセリングに関する教師と臨床家の見解についてのフィールドワークの研究 神戸国際大学紀要, 45, 27-39.
- 伊藤美奈子 1994 学校カウンセリングに関する探索的研究—教師とカウンセラーの役割兼務と連携をめぐって— 教育心理学研究, 42(3), 298-305.
- 河合隼雄 1976 カウンセリングの実際問題 誠信書房
- 川喜田二郎 1967 発想法—創造性開発のために— 中央公論社
- 村山正治・山本和郎 1995 スクールカウンセラー—その理論と展望—ミネルヴァ書房
- 成田善弘 1981 精神療法の第一歩 診療新社
- 日本臨床心理士会職能委員会 1999 臨床心理士の現状—第2回臨床心理士の動向ならびに意識調査結果より— 日本臨床心理士会 10周年記念誌, 151-166

(資料)

## カウンセリング理解インベントリーの 54 項目

(因子別)

各項目は「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「ややあてはまらない」「あてはまらない」の 5 件法で評定 (47 のみ逆転項目)

### 1. 安定・受容

- 1) カウンセラーがクライアントと違う考えを持っていても、カウンセラーはクライアントの考えを暖かく聞いてくれる
- 10) カウンセラーのクライアントに関する関心は安定しており、どんな内容の話であろうとも、暖かく聞いてくれると思う
- 19) カウンセラーはどんなことでも聞いてくれる
- 26) カウンセラーはクライアントの気持ちをそのまま尊重する
- 33) カウンセラーは一生懸命になって話を聞いてくれる
- 39) カウンセラーはクライアントの存在を認めてくれる
- 43) カウンセラーはゆっくり、静かに話を聞いてくれる
- 46) カウンセリングでは、クライアントは何もおしつけられることはない
- 49) カウンセリングでのプライバシーは守ってくれる
- 51) カウンセリングにおいて話される内容は、外部の人には知らされないという秘密性によってクライアントは守られているような気がする
- 53) カウンセラーはクライアントに指示を出すよりも、クライアントが動き出すのを「待つ」
- 54) カウンセラーは、クライアントの気持ちを整理するのを手伝ってくれる

### 2. 結果重視

- 2) カウンセリングを受けると、必ず問題の答えが出る
- 11) カウンセリングを受ければ、クライアントの持つ問題や悩みは必ず解決する
- 20) カウンセラーの指示通りにすれば、悩みが解決する
- 27) カウンセリングで話す内容は、悩みに限定される
- 34) カウンセリングを受ければ受ける程、問題は解決していく
- 40) カウンセリングは、はっきりとした結果がなければ、成功したといえない
- 44) カウンセリングを受けると、クライアントは自分のことが好きになる
- 47) カウンセラーには理解してもらえない気持ちもある

### 3. 自己理解へのサポート

- 3) クライアントが自分の変化に気づくことができただけでもカウンセリングの意味はある
- 12) カウンセリングとは、クライアントとカウンセラーの共同作業である
- 21) カウンセリングではクライアントが自分でも気づかないような心の内面に目を向けることができる
- 28) カウンセラーが特にアドバイスをしなくてもクライアントにとっては聞いてもらえるだけで支援となっている
- 35) カウンセラーはクライアント自身でも気づかない無意識の部分を引き出してくれる
- 41) カウンセリングを受けると、クライアントは自分と向き合うことができる
- 45) カウンセリングを受けると、クライアントは自分のことが理解できる
- 48) カウンセリングでは、クライアントの心の意味の世界が大切とされる
- 50) カウンセラーはクライアントの表に現れた行動、症状自体より、その意味に着目する



52) カウンセラーはクライアントが自分と向き合うための援助をしてくれる

#### 4. 指示性

- 4) カウンセラーは問題についての適切なアドバイスをくれる
- 13) カウンセリングではカウンセラーがクライアントに自信や元気を与えてくれる
- 22) カウンセラーがクライアントを正しい方向へ導いてくれる
- 29) カウンセリングではカウンセラーがクライアントの心や気持ちをほぐしてくれる
- 36) カウンセリングでは心の負担を軽くしてくれる

#### 5. 相互理解

- 5) カウンセリングの際、カウンセラーは自分自身に素直である
- 14) カウンセラーは素直な人であると思う
- 23) カウンセラーはクライアントに対して、純粋で偽りのない姿で接している
- 30) カウンセラーは、カウンセラー自身の感情を否定しない
- 37) カウンセラーはクライアントの言葉だけでなく、感じていることもよく分かってくれる
- 42) カウンセラーはクライアントが感じる気持ちの強度や、微妙な意味合いも理解している

#### 6. 自由に話すことができる場

- 6) カウンセリングにおいてクライアントは何でも話すことができる
- 15) カウンセリングの場は話しやすい雰囲気である
- 24) カウンセリングを受けると、気持ちがすっきりする
- 31) カウンセリングでは自分の悩みや不安を何でも聞いてもらえる
- 38) カウンセリングにおいてクライアントは自分の心の中をそのまま表現できる

#### 7. 修理モデル

- 7) カウンセリングは個室で対一で行なわれており、重苦しい感じがする
- 16) カウンセラーは援助をし、クライアントは援助される者である
- 25) カウンセラーはクライアントの心の病の管理、除去に務める
- 32) カウンセラーは、カウンセリングを能率的、効率的に行おうとする

#### 8. カウンセリングに対する不信

- 8) カウンセリングは何が行なわれているかわからず、不信感がある
- 17) カウンセリングでは何をしているのかさっぱりわからない

#### 9. 分かること分かれることへの不安

- 9) クライアントにとってカウンセリングはいつ自分の本性がばれるかわからないので、不安である
- 18) カウンセリングにおいて、クライアントは自分をさらけ出すことへの怖さがある